

さくら並木

～まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗と今後～

地方創生の視点による本町の現状

大河原町長 齋 清志

地方創生が叫ばれて、早7年目を迎えています。この間、地方に於いては人口減少に歯止めがかからず、各市町村が持つ特徴を活かすにもその良さを単独では守りきれない現実が見え隠れしています。尚且つ、期待された広域連携の成果もコロナ禍の影響も相まって、特に経済面での実績が充分得られていないと受け止めています。そして、市町村間の取り組みへの温度差が今後の連携にも影を落としていることが気掛かりでなりません。

さて、地方創生視点の本町の現状ですが、昨年10月の国勢調査結果に比べて人口は僅かながら増加しています、子どもや働き手の数も大きく減少する傾向にはないようです。また、高齢者の健康意識に関する指標や介護関連・健康づくり等からみた指数も、これまでと変わらない状況が続いていて『元気で長生き』につながる良好な結果となつています。さらに、子どもの学力向上や結婚・出産・子育て支援等の成果を示す指標についても、県内で高い水準を維持しています。そして、重要業績評価指標（KPI）でも税の総額確保に貢献する特筆すべき状況が生まれています。昨今非常に関心の高い『ふるさと寄附金』の額が今

年度3か月経過時点で、既に1億3千万円弱の実績となりました。返礼品にアイリスオーヤマ社の製品が加わった賜ですが、飛躍的な数字になる期待が膨らんでいるところです。

令和元年度までの5年間（第I期）の進捗は、国の示す地方創生3本の矢（情報・人材・財政の支援）を活用し、子育て世代の転入による人口の維持とにぎわいの商業集積や医療の拠点に加え、学力向上等による教育のブランド化などの、本町の持つ特徴を活かした施策に注力してきました。令和2・3年度（第II期）の前半は、コロナ禍への対応と社会経済環境の厳しい変化の真只中にあつても、本町の現状を示す指標等については、県内に於いて高い関心が寄せられるほどの状況にあつたものと受け止めています。

また、長年の行政課題となっていたハード事業（桜保育所・大中体育館の改築等）にも取り組み、一連の子育て、教育環境の整備につとめているところです。さらに、県とのコラボ事業と位置付けられた『白石川右岸河川敷等整備事業』の推進を図り、広域的な新たなにぎわいの拠点の創出を目指します。そして、地方創生関連の交付金活用も検討しながら本町の果たすべき役割の実現を図る所存です。

国の示す今年度の基本方針の考え方

としては、①ヒューマン（地方への人の流れの創出と関係人口）、②デジタル（地方創生に資するDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進）、③グリーン（地方が牽引する脱炭素社会の実現）の3つを掲げています。そして、コロナ禍で懸念されるのは、深刻な状況に陥り易く且つ見えにくい社会的な弱者への対応であり、地域共生型社会の実現もキーワードになるものと受け止めています。

今尚続くコロナ禍は、人と人・地域と地域の関わり方や確実に進むデジタル化とともに、人の生活様式にも大きな影響を与えることとなりました。今後の地方創生の視点に於いては、外部から地域に参画する『関係人口』との連携・協働による地域づくりにスポットが当たるとの認識する所存です。

（7月16日記）





町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木

第5回 新しい桜を紹介します

今回は皆さんに新しい桜の話題を紹介したいと思います。

一つ目は秋保町野尻地区に自生し、桜の名所づくりアドバイザーの高階道子氏によって最近発見された「秋保足軽紅重」という樹齢約250年の桜(写真)です。オオヤマザクラ系で花は淡いピンク色、花が大輪で重弁化するのが特徴です。足軽として藩堺警備を担っていた地域の歴史を踏まえ、桜は「野尻いぐする会」(22戸)によって命名、昨年7月、(公財)日本花の会による桜の品種認証制度により新品種に認定されました。東北では弘前市の桜に次いで2例目です。

今年はその桜見たさに多くの人々が押し寄せたとか。その裏では市や野尻地区の皆さんの観光化に向けた熱心な取り組みがあったようです。

2つ目は、3年ほど前、紀伊半島南部で発見された「クマノザクラ」という野生の桜です。「ここの帯では毎春、桜が二度咲く」と古くから語り継がれてきました。国内の野生種ではおよそ100年ぶりの発見

見です。外観はヤマザクラに似るが花は紅色。数万本が自生すると言われ、地元自治体では観光資源に育てようとの機運が高まりつつあります。苗生産も始まりました。なんと私の所にも近々寄贈されるようなのです。

日本の桜は分類上、野生種と品種とに分けられ、品種はさらに群、系として細かく分かれていきます。日本五大桜のうち、樹齢2千年と推定される「山大神代桜」(山梨県)など2つは野生種のエドヒガン、「狩宿の下馬ザクラ」(静岡県)も同じ野生種ですがヤマザクラになります。

エドヒガンは変異種がでやすく町内にも見られます。来年の花見で皆さんも将来の銘木や珍しい桜を掘ってみてはいかがでしょうか？



秋保足軽紅重 写真提供 高階道子氏



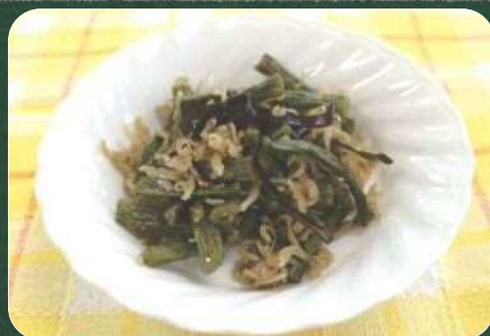
かんたん！健康クッキング

令和3年度大河原町食育スローガン「家族で野菜のおかずをひと皿増やし」

さやいんげんの佃煮

材料 (6人分)

- ・いんげん 300g
- ・切りこんぶ 2g
- ・しょうが 15g
- ・ちりめんじゃこ 20g
- ・水 100 cc
- ・砂糖 大さじ2
- A 酒 大さじ2
- ・しょうゆ 大さじ2
- ・みりん 大さじ2



【ひとり分栄養価】 写真は6人分
エネルギー 59kcal
塩分 1.1g

作り方

- ①さやいんげんは筋をとり、4cmの長さに切る。切りこんぶは食べやすい長さに、しょうがは千切りにする。
- ②鍋に①とちりめんじゃこ、Aを入れ、弱火で10分程度(汁気がなくなるまで)煮る。そのまま冷まして味をなじませる。

～調理担当ヘルスマイトから一言～

保存の効く一品です。

暑くて食欲が低下した時のごはんのおともはいかがですか。



島田 京子さん(西原区)

